

第9回研究会 報告

○日時：2013年1月9日（水）

○参加者：弓野先生，塩田先生，山口さん，酒井（報告者）

○報告：

第9回研究会では，小学校5年生の算数の単元である「小数と整数」を基に，そこで予想される創造的な発問内容の検討を行った。また，それに伴い創造的な発問を授業のどの場面で扱うのかという点に関して検討を行った。以下に，行った議論のメモを挙げる。

次回は，それぞれの単元の項目ごとに発問のリストアップを行い，内容の検討を行っていく。

第9回研究会 メモ

○算数における創造的な発問方法について

- ・子どもに単元に則した問題を作成させる。
- ・整数と小数：「10分の1，100分の1にしなくてはいけない場面を考えてみよう。」

○創造教育の算数における課題

- ・算数は1つの答えを出させる場合が多いため，創造性を育みにくい。
- ・単元の導入部分としては，数学史や日常生活との関わりが重要
- ・導入でなぜ必要なのかということを問う。

（例）「身長はみんな1mかな？」→「では，1.5mかな？」

- ・創造性は教授する内容の本質から離れないことが重要である。